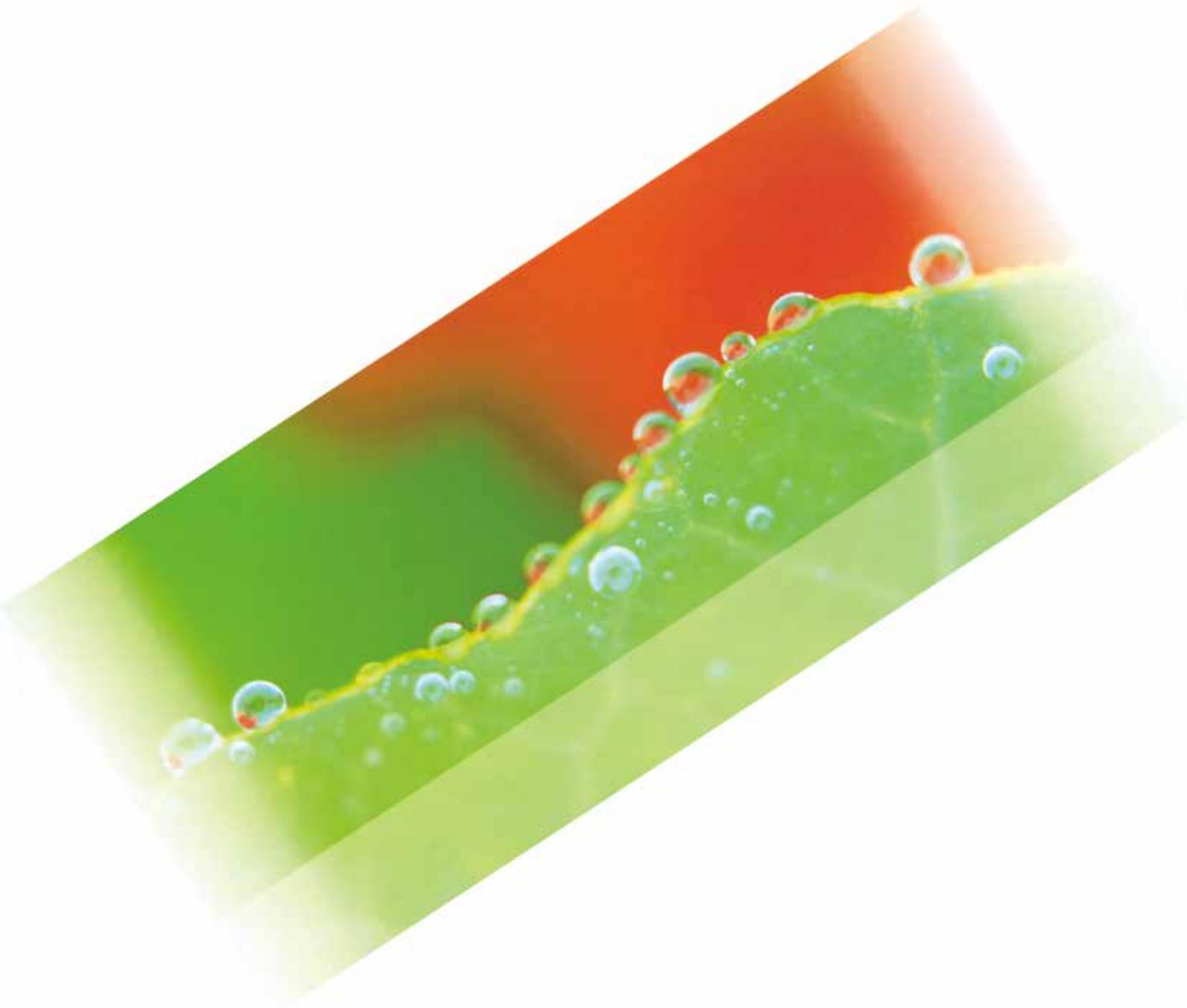


ポリマーセメント系塗膜防水

TLコート



 **TAJIMA**

vol. 24

適材適所のトータル防水

これまで“水を防ぐ”ことを目的に、

さまざまな防水材料や工法が開発されてきました。

しかし、防水材料の選定にあたっての重要なポイントは、

建物の各部位に要求される防水性能に

適切にそして確実に応えるものを選ぶことです。

TLコートは、

既に十分な評価がなされているアスファルト防水とくらべ、

最近開発された材料・工法のため、

その特徴を考慮し、確かな防水性能を発揮できるように

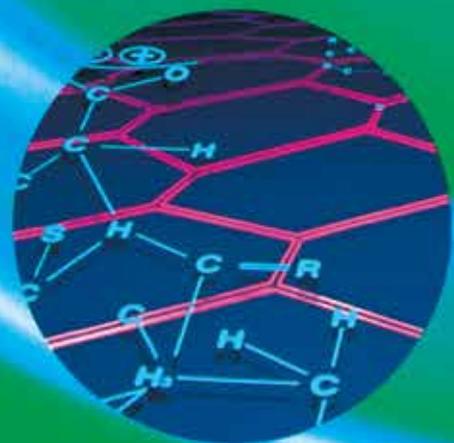
適切な仕様の選定を行なう必要があります。

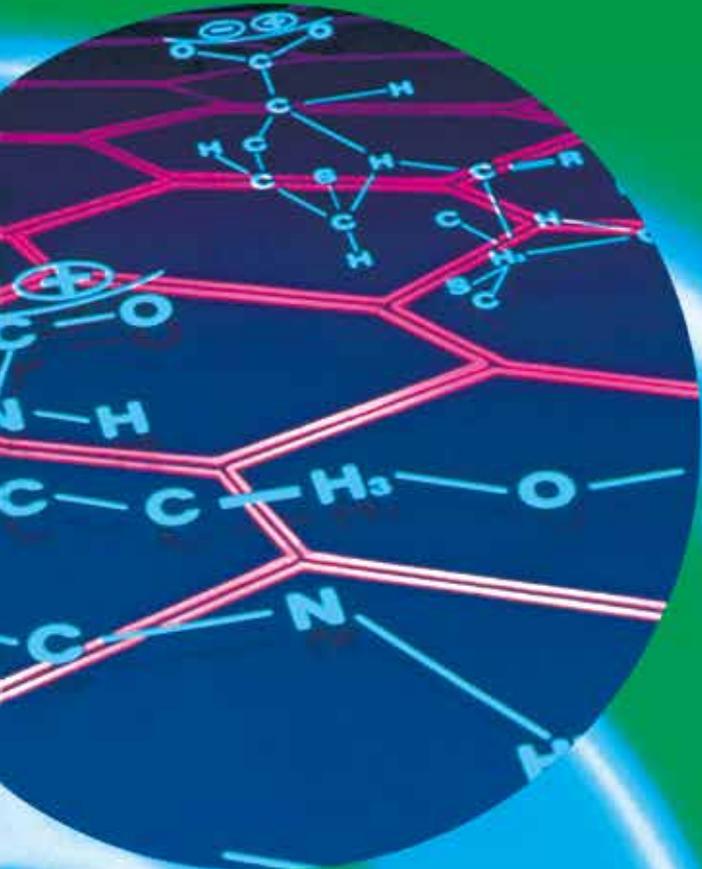
建物部位別の多岐にわたる防水要求レベルに速やかに応え、

トータルでシステマチックに材料と工法の選定を可能にし、

コストパフォーマンスに優れている。

それが“適材適所”の選定条件をクリアしたTLコートです。





特 長

〔1〕安全性

(施工時) : TLコートは水性エマルジョンで、毒性・引火性がなく、密閉場所での作業が安心してできます。

(仕上り後) : TLコートが水質におよぼす影響はありません。

〔2〕接着性

専用プライマーの使用によりコンクリート・モルタル・ALCパネル・鉄板・タイル等の各種下地に対してすぐれた接着性を保持します。

〔3〕施工性(作業性)

液体と粉体がセットになっているので、調合が簡単です。また、混練後の可使用時間も十分に長く、ハケ・コテによる手塗りや、吹付け施工などの作業性も良好です。

〔4〕耐候性

自己架橋性の特殊アクリル樹脂と無機質水硬性粉体を組み合わせることにより、屋外に曝露されても十分な耐候性を長時間保ち、建物を保護します。

〔5〕耐水、耐温水性

自己架橋性の特殊アクリル樹脂のため、耐水性・耐温水性・耐アルカリ性に優れた性能を発揮します。

一般に市販されているEVA系の弾性モルタル防水材と比較して、耐水・耐温水性が極めて良好です。したがって、EVA系のもものでは、水槽等の防水工法においては、保護層を必要としますが、TLコートの場合は不要です。

〔6〕耐疲労性

皮膜が柔軟性に富むため、下地スラブに発生するクラックの動きにも疲労破断しにくく、防水効果を持続させます。

施工対象範囲



TLコート仕様

TL-10	プライマー	TLコート・ハード (HD) 0.8kg	(保護塗料)		
TL-20	プライマー	TLコート・ハード (HD) 0.8kg	TLコート・ハード(HD) 0.8kg	(保護塗料)	
TL-25	プライマー	TLコート・レギュラー (RG) 0.8kg	TLクロス1000	TLコート・ハード(HD) 0.8kg	(保護塗料)
TL-30	プライマー	TLコート・レギュラー (RG) 0.8kg	TLコート・レギュラー (RG) 0.8kg	TLコート・エキストラ (EX) 1.0kg	

注1) 保護塗料としては、SPミネラコートを使用します。

2) TLコート・ハードの配合の代わりに、TLコート・レギュラー配合を用いる場合もあります。

プライマー

種類	下地	プライマーの種類	塗布量 (kg/m ²)	プライマーの種類塗布前の処理
吸水性下地	コンクリート・モルタル	TLコートA もしくは TLコートB (2~5倍希釈液)	0.2	砂・ホコリ・レタンスを除去 水洗を行う

材料一覧

区分	品名	性状	用途	荷姿
主材	TLコートA	自己架橋型特殊アクリルエマルション	バインダー	18kg/缶
	TLコートB	自己架橋型特殊アクリルエマルション (グレー)	バインダー	18kg/缶
硬化材	TLコートC	無機質水硬性粉体	充填材	18kg/袋
保護塗料	SPミネラコート	珪砂入りエマルション (ミネラダークグレー) (ミネラグレー) (ミネラグリーン)	保護仕上材	18kg/缶
副資材	TLクロス200 ^{※1}	合成繊維メッシュ	出入隅・ドレン補強用	200mm×50m、5巻/包
	TLクロス1000	合成繊維メッシュ	補強材	1m×50m巻

※1 受注生産品

TLコートの配合

施工箇所ごとに配合を変え、粘度調節を行うことが可能です。

TLコートハード(HD)



TLコートレギュラー(RG)



TLコートエキストラ(EX)



配合時の注意

- TLコートAとTLコートCの攪拌混合には、高速攪拌機をご準備ください。
(回転数：1,300rpm 出力：7.2A以上)
- TLコートAとTLコートCの混合物は、濃いグレー色になります。TLコートBを用いることにより、仕上がりをグレー色にすることができます。

技術資料

TLコート of 可使時間及び歩行可能時間

可使時間	歩行開始可能時間	硬化時間
------	----------	------

TLコート ハード (HD)

5℃	4 時間	4 ~ 5 時間後	24時間以内
20℃	2 時間	2 ~ 3 時間後	6 ~ 7 時間
40℃	1 時間	1 ~ 2 時間後	5 時間

TLコート レギュラー (RG)

5℃	6 時間	6 ~ 7 時間後	24時間以内
20℃	4 時間	3 ~ 4 時間後	24時間以内
40℃	2 時間	2 ~ 3 時間後	8 時間以内

※密閉条件下で測定。歩行開始可能時間・硬化時間については、塗布厚1.0mmで測定。

※歩行開始可能時間は、施工部位・塗布厚・気候条件などにより変化します。上表は一つの目安として利用してください。

TLコート of 接着性

単 位:N/㎟

条 件 配 合	168hrs室内養生	168hrs室内養生+168hrs水中浸せき	168hrs室内養生+672hrs水中浸せき
A. 対モルタル下地 TLコート・レギュラー (RG)	1.1	0.8	0.8
TLコート・ハード (HD)	1.8	1.3	1.1
B. 対コンクリート下地 TLコート・レギュラー (RG)	1.5	1.2	1.1
TLコート・ハード (HD)	1.9	1.6	1.4
C. 対保護モルタル ※ TLコート・レギュラー (RG)	1.2	—	—
TLコート・ハード (HD)	1.3	—	—

※石綿スレート板にTLコートを塗布後、168hrs室内養生し、保護モルタルを打設し、168hrs養生後、試験を行う。

TLコート of 一般性状

1. TLコートAについて

項 目	性 状
組 成	特殊アクリルエマルジョン
固 形 分	49% ± 1.0
粘 度	4,000cps ± 2,000
比 重	1.0 ± 1.0
PH	4.5 ± 1.0
色 調	乳白色

<注意事項>

- 使用前は、十分に攪拌してください。
- エマルジョンですから5℃以上で必ず保管してください。
- 屋内保管を原則とし、やむを得ず野積みにする場合は必ずシートを掛けてください。

※TLコートBはTLコートAと基本性状はほとんど同じですが、TLコートAに比べて施工時の作業性を改善するため、一部、添加剤を加えてあります。

※最新の数値については試験表をお取り寄せください。

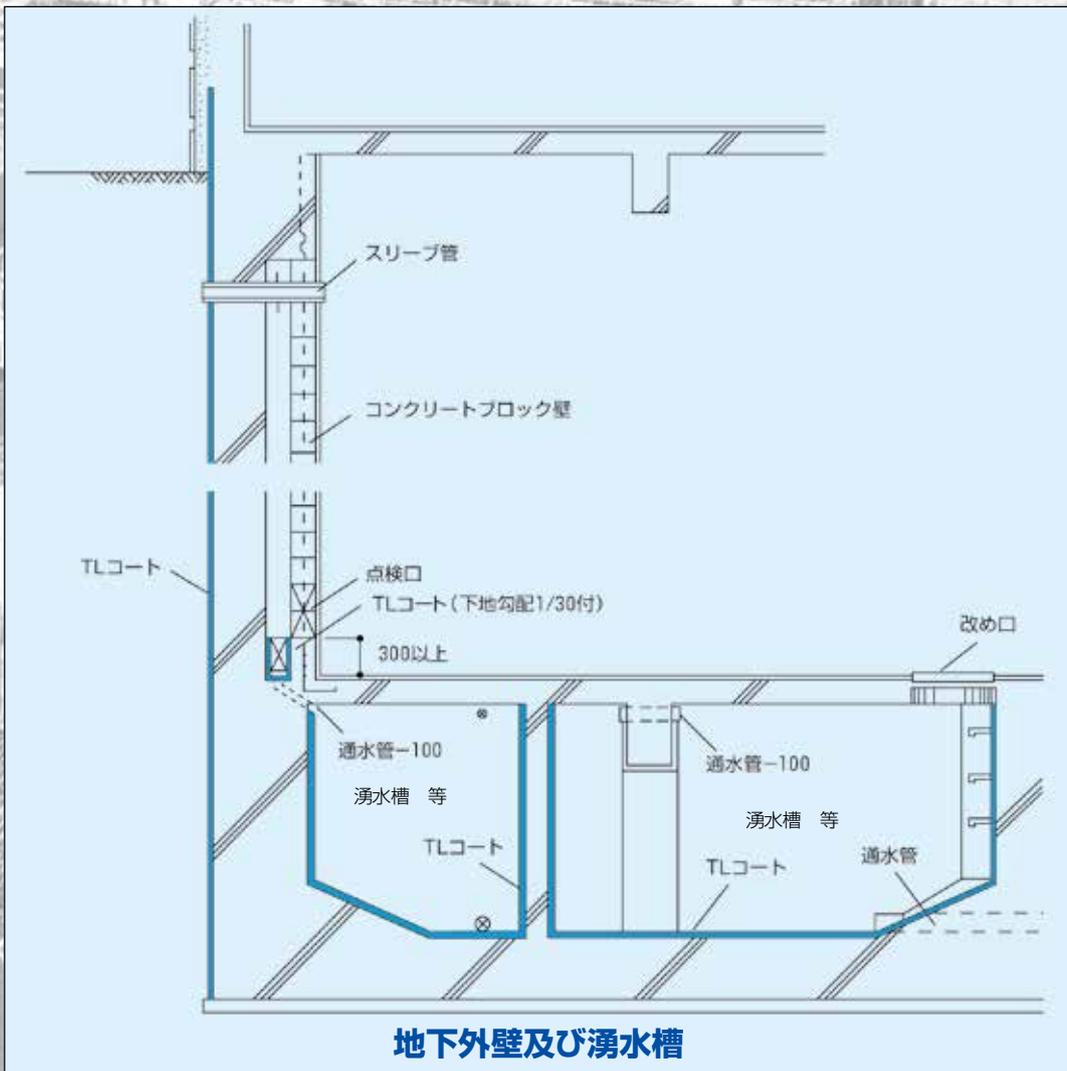
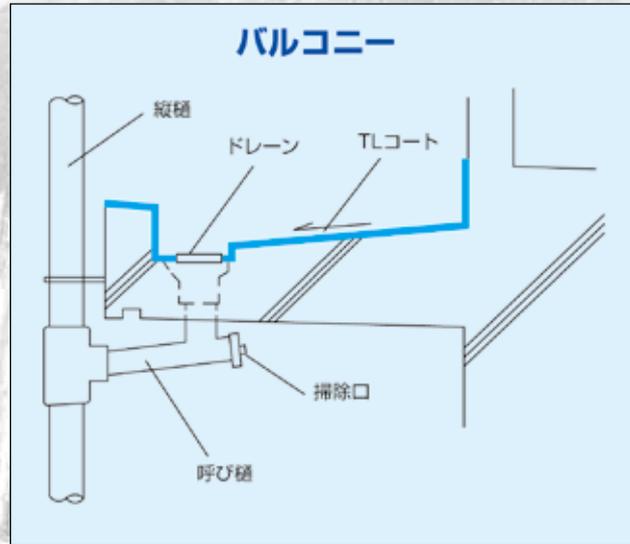
2. TLコートCについて

項 目	性 状
組 成	水硬性粉体
色 調	グレー系

<注意事項>

- 水硬性粉体のため、湿気に十分注意して保管してください。
- 屋内保管を原則とし、やむを得ず野積みにする場合は必ずシートを掛けてください。

納まり図例



製品の取扱いと施工についての注意事項

下地について

- 平面部コンクリート下地は、金ごて仕上げとしてください。
- 下地の突起、粉塵やレイトンス、油脂分などは除去し、必要に応じ樹脂モルタルなどで平滑に仕上げてください。
- 下地の入隅は直角とし、出隅は3～5mmの面取りが標準で、通り良く仕上げてください。
- ドレン、貫通パイプなどは防水施工に支障が無い位置に強固に取り付けてください。
- 施工前のコンクリート下地は表面の水分、および湧水がないことを確認してください。

材料の保管について

- TLコートA、TLコートBはエマルジョン系です。凍結させないようにご注意ください。
- 材料は5～40℃で直射日光の当たらない屋内に保管してください。
やむを得ず屋外に置く場合には必ずシートを掛けて保管してください。
- TLクロス、TLコートCは水に濡れないように保管してください。

施工時の注意点

- 降雨や降雪、気温が著しく低いなど気象条件の悪いときは施工を避けてください。
- 施工完了後、硬化前に降雨や降雪にあわないようにしてください。また、立ち入らないようにしてください。
- 通風の無い室内や高湿度の条件では、硬化乾燥をよくするために、送風機等を用いて養生してください。
- 小分けにして使う場合は、TLコートAを事前に十分攪拌混合してください。
- TLコートの施工には刷毛、こて、ローラー刷毛などを使用してください。
- SPミネラコートは刷毛、ローラー刷毛でむら無く仕上げてください。

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。
下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。

田島ルーフィング株式会社

<https://tajima.jp>

東京支店	〒101-8579	千代田区外神田4-14-1	TEL 03-6837-8888
大阪支店	〒550-0003	大阪市西区京町堀1-10-5	TEL 06-6443-0431
札幌営業所	〒060-0042	札幌市中央区大通西6-2-6	TEL 011-221-4014
仙台営業所	〒980-0021	仙台市青葉区中央1-6-35	TEL 022-261-3628
北関東営業所	〒330-0801	さいたま市大宮区土手町1-49-8	TEL 048-641-5590
千葉営業所	〒260-0032	千葉市中央区登戸1-26-1	TEL 043-244-3711
横浜営業所	〒231-0012	横浜市中区相生町6-113	TEL 045-651-5245
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町1-12-20	TEL 042-503-9111
金沢営業所	〒920-0025	金沢市駅西本町1-14-29	TEL 076-233-1030
名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄1-9-16	TEL 052-220-0933
広島営業所	〒730-0029	広島市中区三川町2-10	TEL 082-545-7866
福岡営業所	〒810-0041	福岡市中央区大名2-4-35	TEL 092-724-8111